

誰もが参加人の輪拡大 教育や福祉の活用期待

「包丁使うの慣れてるね」 理室で、ベテラン主婦と女
 「学校で調理実習があるん 子高校生が並び、手際よく
 です」。昨年11月中旬、伊 野菜を刻んでいく。隣の部
 予市生涯研修センターで、 屋では、子どもたちがおも
 なみ館（伊予市湊町）の調 ちやで遊び、高齢者は談笑



大人数分の料理を作る伊予農業高校生とキョロキョロ隊メンバー 伊予市湊町

まほら子ども食堂（伊予市）

しながら料理ができるのを 待っている。
 昨年3月に同市郡中地区 でスタートした「まほら子 ども食堂」。10月からは同 館を会場に月1回、午後6 時から開催している。親子 の参加が多く、誘い合って 訪れる高齢者の姿もある。 地区内で介護事業所を経 営し、自ら社会福祉士やケ アマネジャーとして働く古 谷大志さん(32)が、会社の 仲間らとNPO活動として 立ち上げた。福祉関係者や 管理栄養士などのほか、地 元の女性グループ「キョロ キョロ隊」メンバーが協力。 市内の農家などから野菜や 米の提供を受け、民間の助 成金も得ている。

古谷さんは2017年度 から松前町の小中学校でス クールソーシャルワーカー を務めており、経済的困窮 など家庭の問題を抱える子 どもたちの現状を知る中 で、子ども食堂に関心を持 った。「貧困家庭を支援し たい」との思いが強かった が、アプローチが難しい。

強調すると参加しにくくな ってしまつ」。他のメンバ ーから「子ども、大人を問わ ず、いろんな人に来てもら った方がいい。大勢来れば、支 援を必要とする子もいるだ ろつ」との意見もあり、誰 もが参加できる交流の場と なっている。古谷さんは日 程や会場を固定して続けれ ば、教育や福祉の関係者が 社会資源として活用してく れるだろう」と期待する。

同食堂や、まつやま子ど も食堂にボランティアとし て参加している弁護士高橋 宏典さん(31)「東温法律事 務所」は「仕事で相談を受 けているひとり親家庭など に子ども食堂を紹介するこ ともある。いろんな職種 の人が集まっているので、相 談や支援のきっかけになれ ば」と話す。

参加者約40人が待つ部屋 に「レンコン入りハンバー グ」などが運ばれてくると、 「おいしい」「ボリューム がある」などと笑顔が広が った。幼児2人と初めて参 加した主婦(35)は「子ども たちが触れ合う場というイ メージで興味があった。伊 予市に来てまだ2年弱で、 知り合いがあまりいないの で、子どものためにもこう いう場にどんな人参加した い」と話した。

2年生6人が藤川幸恵教 諭、佐々木紀久事務長と共 に初めてボランティアとし て参加した。生徒と藤川教 諭は調理を手伝い、佐々木 事務長はバルーンアートを 披露、プレゼントして子ど もたちを喜ばせた。

管理栄養士を目指してい る二宮綾香さん(17)は「食 に関するボランティアをし たかった。大人数分の調理 で大変だったけれど、おい しそうに食べている姿を見 て、作った方がいいがあつた」と満足そうだった。

古谷さんは「人の輪が広 がってきている。今後、組 できれば学習支援にも取り組 みたい」と意欲を燃やす。

(花本和久)



レンコン入りハンバーグなどの料理を味わう参加者



「いよいよ食事の時間。」「いただきます」

月1回、原則第3金曜午後6～8 時。高校生以下は無料、大人300円。
 予約制(電話、電子メール、LINE)。
 事務局☎089(904)6031